

グループホーム 黒崎

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域のなかで、その人らしく暮らしていく為には、グループホームとご家族が協力して、利用者本人の暮らしを支えることを基本とし、グループホームが出来ること、ご家族にしか出来ないことを見極めて、ご家族にかかわっていただき、利用者が、安心して穏やかに最期まで暮らせるように援助していくことを、基本理念としている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		管理者の思いが、職員のすべてに伝わっているとは思えないし、また職員の一人ひとりが持っている介護に対する思いも違うものがあると思われる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		家族会には、区会長や民生委員長に来ていただき、地域の暮らしの様子をご家族に伝えてもらったり、地域の催し物に出かけたりして、グループホームが孤立せずに、地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		建物の構造上、なかなかご近所の方々に気軽に声を掛け合う関係というわけにも行かないが、町内会のあつまりなどに、場所を提供したりして、日常的に交流できるように努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会に入会しており、出来る限り行事には参加し交流に努めている。毎月一回あるふれあい昼食会へ参加しており、地元の方々と交流できている。

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員の経験を生かして、介護相談などにはこまめに応じているが、地域の方の暮らしに役立つところまではいたっていない。介護相談には、小まめに応じている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者や計画作成担当者までは理解しているが、一般職員が意義を理解するまでにはいたっていない。</p>		<p>今回は間に合わなかったが、今後は各職員に自己評価の項目を振り分け、考えてもらおうと思っている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、写真入りでの日常生活状況や、評価への取り組み状況などを報告している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>包括支援センターからの、利用者の紹介等もあり、困難事例の相談など、行き来してサービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している</p>	<p>地域権利擁護や成年後見制度など、内部研修にて学ぶ機会はある。現在利用者で必要とされている方は、おられないが、今後必要とされる方が出てこられた時に、活用できるように支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関して、研修はしているが、言葉による虐待や態度については、何気なく使用しているばあいもあり今後も学び続けていかなければと思っている。</p>		<p>更なる研修に努めたい。</p>

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居される際に、詳しく説明している。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族の面会も頻繁であり、介護相談員の受け入れもある。不満や苦情を外部者へ表せるように、苦情相談窓口のポスターの掲示もしている。ただし、認知症の利用者にとって、意思表示は難しく、ご家族からの相談は、真摯に受け止め、運営に反映している。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月のケア報告書など、こまめに報告している。体調に変化があったときなどは、ご家族にすぐ連絡を入れている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	両ユニットの入り口には、ご意見箱を設けており、またご家族面会の折には、こまめに声かけをし意見を聞くことができるようにして、皆に伝えている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月一回の社長面談や管理者会議などで、意見や提案を聞き、反映している。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	緊急受診や、行事など必要な時間帯に職員が確保できるように、調整に努めている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	介護職への賃金アップ、資格取得後の正職員への登用などで、職員の離職率は減っており、ダメージはほとんどない。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>現在24歳から69歳までの職員が働いており、それぞれの実力に応じて、業務の分担も出来ている。また、資格取得も奨励しており、自己実現に向けてがんばってもらっている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権に対する教育は十分出来ているとは思えないが、今後も啓発し続けなければならないと思われる。</p>		<p>今後も研修などに取り入れ、高齢者の尊厳など啓発していく。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現在は、新人教育をはじめその他の研修も、年間スケジュールが出来ており、法人内外の研修を受けられる機会を確保しているが、今後更に、トレーニングを進めたい。</p>		<p>4月～新たなトレーニング計画を実施する予定。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>何かにつけて相談するグループホームはある。また管理者が認知症リーダー研修に参加したことで、地域の同業者との広がりも始めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は組織での新年会や、賃金アップなどに努めてくれていると思われる。管理者は休憩室の充実や、連休など職員がリフレッシュできるように、勤務などを考慮しているが、管理者そのもののストレスはなかなか減らない。</p>		<p>運営者が福祉関係者でないということと、24時間365日動いている施設が組織の中で、グループホームだけであり、その他の居宅、訪問介護やデイサービスなどの違いを理解していないこと多く、管理者はそこがストレスであるが、今後は理解してもらうように努めていかなければ…とっている。</p>

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度あり、自己評価を通じて個々の努力など、また資格取得に向けての意欲などが出るように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居後まもなくは、なかなか本人の気持ちを聞くことは出来ないが、少しずつコミュニケーションをとりながら、センター方式などを利用して、本人の話を聞く機会を設け手、受け止める努力はしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	こまめな相談に応じ、家族の気持ちをしっかり受け止めたうえで、求められていることと、グループホームの機能の説明をし、納得できるまで話し合う。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けて、入居を希望されても空き室が出るまでには、間がある為に、それまでに必要としている支援を見極め、デイサービスや訪問介護につないだりしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境を変えることに関してのダメージが少ないように、入居まで階下のデイサービスを利用したりして、無理のない入居になるように、相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんからお茶を入れてもらったり、一緒に洗濯物をたたんだり、食器拭きをしたりして利用者や職員ともに、支えあう関係をつくっている。高齢者の知恵から学ぶことも多く、支えあう関係を大事にしている。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人が不穏あるときは、家族にお願いして面会に来てもらったり、一緒に外出してもらったり、本人の好物を持ってきていただいたりして、支えていく関係作りに励んでいる。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	こまめなケア報告書にて日々の生活の報告等をし、よりよい関係であるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出来る限り努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も、ご家族には電話を入れたり、またご家族のほうから自宅で収穫したみかんなどを持って、尋ねてくださることもあり。グループホーム以外の場所で出会ったときなど、お互いに声かけ合う関係である。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自由に過ごされたい方には、食事時間も起床時間も自由にさせていただいているし、少し無理をしてでも、リハビリなどが必要な方には、リハビリの時間をもうけている。個人々に応じた暮らしが出来るように、支援している。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、担当ケアマネより出来る限りの除法を取り寄せている。また面接などでご家族や、本人からも話を聞き、日々の介護に生かしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	皆でこまめに話し合い、センター方式などを利用して総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成している。現在はセンター方式を導入しつつ、認知症に対する介護計画が、充実したものになるように努力している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝のミーティングや介護日誌、また連絡ノートで情報の共有をしながら日々の介護に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診への付き添いや車での送り迎えなどまた入院時の準備、お見舞い、医療関係者との連携また日常必要となる物品の買い物に行くなど、柔軟に支援している。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出来る限り支援している。近隣の小学校からは、いろいろな行事へのお誘いもあり、できる限り参加している。毎月市民センターでのふれあい昼食会や季節ごとの行事などにも参加している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	下のデイサービスの催し物に、参加する事はあるし、福祉用具を利用することもあるし、訪問マッサージやリハビリをお願いすることもある。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在包括支援センターからの紹介で利用者を1名受け入れたりしている。また、困難事例や権利擁護について相談したりしている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所にいたるまでのかかりつけ医には、ご家族と連携を取りながら受診していただき、グループホームのかかりつけ医で納得される方は、そちらに代わって頂き、適切な医療が受けられるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	試行錯誤しながら、やっと認知症専門医との関係を作り、随時報告をしたりして、精神薬を調整をしていただいたり、こまめに診断や治療が受けられるように支援できている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	19年4月より医療連携加算をとり、毎週1回決まった看護師が訪問のうえ利用者の健康管理及び相談に努めている。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院準備から面会お見舞いなど、家族に代わってこまめに支援しており、病院側からもグループホームのほうに相談をされることのほうが多く情報交換に努め、早めの退院につながるように努力している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医や訪問看護師及びご家族と繰り返し話し合い、お互いが納得できるような終末を迎えることが出来るように、全員で方針を共有しており、現在2名ほどの看取りを実施した。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在、ターミナルケアに向かって訪問看護ステーションやかかりつけ医と共に、チームとして支援に取り組んでいるが、ご家族が望まれても、ご家族の協力が得られない場合や痛みが激しい場合、常に医療を必要とする場合は無理であり、グループホームで、出来る事出来ないことをはっきりとさせて、検討や準備を行っている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今までは、別のところに移り住むと言うことはほとんどなかったが、最近特養に入られる方が出ており、ご家族や施設等の関係者と十分に情報交換を行い、ダメージを防ぐようにはしている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>職員が高齢者介護に関して研修してきたレベルもまちまちであり、今後は高齢者の尊厳や、言葉書けなど更に教育が必要と思われる。</p>		<p>本社の教育課長とも協力して、更なる職員教育に取り組もうと思っている。</p>

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	センター方式を使用して、本人の希望など聞きだすようにしており、出来る限り納得して暮らせるように、支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外出についても、本人の希望を聞き、拒否あるときは無理じいはせず、後は自由に過ごしてもらっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	以前は、本人の希望に添って、ご家族が美容院に連れて行かれたりしたが、体力や歩行の低下などで、無理なことも出てきた。他の利用者さんは、訪問美容室を利用している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が、重度化しており食事の準備を一緒にはなかなか出来ないが、片付けは一緒に行っている。たまには、コロッケやおはぎなど一緒に作ることもある。また毎週金曜日は、お刺身の日であり、ビールやお酒を飲まれる方は、身体に無理のない程度に、自由にいただいている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	正月のおとそに始まり、毎晩ビールを飲まれる方あり。またヤクルトさんが販売に来たりして日常的に楽しめるようにしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけ、こまめなトイレ誘導や、個人の状況に応じた紙オムツの使用など、また下剤の調節などで、気持ちよく排泄できるように支援している。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	とりあえずの曜日は決まっているが、排泄失敗時のシャワー浴や、体調にあわせての入浴などタイミングにあわせるように支援している。また寝る前の足浴などを、実施している方もある。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の好きなタイプや、朝が起きれない方などその方の習慣に応じて、ほとんど入眠剤などの使用なしに眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽とテレビドラマがお好きな方は、十分に見ることができるよう、また散歩が好きな方、ガーデニングが好きな方など、なるべく気晴らしが出来るように支援はしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来るタイプには、お渡ししている。また買い物等に行った際に自由に使えるようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	寒い時期や、インフルエンザの季節など、外出は控えるようにはしているが、季節がよいときは、戸外に出かけるようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	認知度が進み、行きたいところも意思表示できないレベルの方がほとんどだが、出来る限り機会を作って支援している。それぞれの誕生日に、食べたいものがあれば職員と一緒に出かけるようにしたり、買い物の好きな方などは職員とともに、買い物に行くようにしている。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状が来る方あり、携帯電話をもたれている方あり、手紙のやり取りなども自由になっている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	こまめに面会に来られるように、居心地よくしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知による不穏でも、特に問題なければ、精神薬の使用はほとんどせずに、認知症の利用者が夜間寝ないのは、当たり前のこととして職員が見守り、会話したり、温かい飲み物など用意したりして、拘束のないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は、ほとんどの方が落ち着いており、日中は鍵をかけることなくケアできている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	なるべく、利用者が見渡せる位置にいての記録や、夜間は換気扇を消して物音に注意し、トイレの戸は閉めての見守りなど、安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは取り除く方向だが、特に危険を感じない限り普通の暮らしに近い状態にしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットなるもので大事に至る前に、危険は防ぐようになっているが、今後も転倒、窒息に関しては、常に危険が付きまわっており、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の入れ変りもあり、なかなか全員に定期的に訓練を行うまでにはいたっていないことと、すべての職員が応急手当や初期対応が出来るように、今後も訓練は必要と思われる。		すでに看取りは実施したが、すべての利用者も急変の可能性はあるわけで、今後も訪問看護師や教育課長、消防署などとも連携を取って、訓練実施を定期的に行いたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は、大雨があり、近くの池があふれるということもあったが、幸いグループホームは被害にあっていない。今後は、地域の協力も得て避難ができるような対策が必要と思われる。		今後は更に地域の協力が得られるように努めたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性や、誤嚥の危険性などお話し、普通食からキザミ食、ミキサー食へと、また肺炎の可能性などは、家族に説明し、希望を聞いて、出来る限り自然に暮らせるように支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや、排尿排便の排泄管理、少しでも異変のあるときは、かかりつけ医に連絡指示を受けたり、訪問看護師に連絡し来所してもらったりしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報は伝えてある。またかかりつけ医の往診時や、訪問看護師来所時に職員が質問したりしている。薬の本があり、解らないときは本を見て情報を得たり、インターネットで検索し、情報は共有するようにしている。薬が変わった時は、変化をチェックするように指示している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	豆類や野菜の多い食事、水分の摂取や階段の上り下りや、ラジオ体操、散歩などに取り組んでいる。出来れば2日に一度は便がでるように働きかけている。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に、口腔ケアを実行している。また義歯を預かり、消毒したり訪問歯科に依頼したりして、口腔ケアは実施している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食と夕食は、栄養士が献立を立てており、また昼が肉のときは、夕食は魚という風にしてバランスをとっており、嚥下に障害のあるタイプや、腸疾患の方に応じて、ミキサー食やキザミなどとして支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルなどあり、そのときに応じて、実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾は日光消毒した、調理器具などもハイターなどでこまめに消毒して管理に努めている。定期的に消毒業者も入っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	たてものは2階部分であり、入り口がわかりにくかったりするが、安心して出入りが出来るように、工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに、電気をつけたり消したりして、またカーテンにより光をさえぎったりして、居心地がよいように工夫している。リビングや食堂などには、季節ごとのレイアウトをして心地よく暮らせるように、工夫している。		

グループホーム 黒崎

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置し、ベランダには長いすなど利用者が好きな空間で暮らせるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれが気持ちよく暮らせるように、じゅうたんや椅子テレビの配置などして工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は、各居室窓を開放したり換気扇を使用したりしてこまめに換気しており、乾燥する冬場は湿度を50パーセントに保つように水分をスプレーしたり、居室に水が入っているものを置いたりして湿度を保つ工夫をしている。エアコンの温度は状況に応じてこまめに、調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いろいろなところに手すりがついており、また廊下は車椅子や歩行器で自由に動けるように、幅広くなっている。室内は段差なく、バリアフリーである。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室が解らない方には、大きく名前を書いた名前の紙を貼るなど混乱を防ぐ努力はしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物は2階建てで、グループホームは2階にある為に、すぐに外に出られるわけではないが、階下には、畑があり、ベランダではガーデニングなどが出来るようになっている。		

グループホーム 黒崎

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 黒崎

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまにある	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

途中で経営母体は変わったものの、開設以来6年近くが過ぎて、利用者さんも最初からの方が4名になった。当初からのご家族とは、コミュニケーションもとれており、お互いの気持ちもわかっている。また去年は、看取りも実施し、介護への職員の気持ちも、より深いものへと変わったようである。かかりつけ医や、訪問看護師、ご家族、職員との連携で安らかに看取ることができたことを、管理者としては感謝している。職員にとっても、身内ですらほとんど身近に死を感じることは出来ない昨今、貴重な経験だったと思う。ただし、看取りはグループホーム側にとって、かなりエネルギーを消耗することである。高齢者にとっては、本当に厳しい医療制度であるが、グループホームで自然に看取するには・・・を、今後も課題としてやっていきたい